

新産廃処分場 むつに完成。

青森クリーン

むつ市の産業廃棄物処分



業「青森クリーン」（加藤秀人社長）が、同市奥内に整備していた新産業廃棄物最終処分場が完成し、25日、現地で竣工祭を開いた。

処分場は、埋め立て容量が満杯になりつつある既存の処分場近くに整備した。汚水の処理や漏えい防止で最新設備や工法を駆使するなど、環境に配慮した構造となっている。工費は約20億円。

青森クリーンが整備した産業廃棄物最終処分場（手前）。左上が既存の処分場（同ホームページより）

今後の用地拡張分を含めると、規模は面積5万1318平方メートル、容量75万5776立方メートルとなる。容量は既存の処分場の約1・75倍で、15年間の稼働を見込む。今月から青森県内各地の産業廃棄物や一般廃棄物の受け入れを始めている。

竣工祭には関係者約70人が参列。循環型社会形成の流れで、産業廃棄物処理業が果たす社会的役割は高まっており、加藤社長は「処分場を活用し、さらに（廃棄物の適正処理を）頑張っていききたい」と決意を新たに示した。

（橋端智和）